

核兵器禁止条約発効 核兵器廃絶に向け先頭に

国鉄原爆死没者慰霊式

第49回国鉄原爆死没者慰霊式が8月9日、浦上駅構内の慰霊碑前で営まれた。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、規模の縮小と参列者を制限して執り行われた。また、慰霊碑の移転が決まっており、現地での最後の式典となった。

式は10時50分、上之濱長崎地区本部書記長が「新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年も式典の規模の縮小とご遺族の参列を制限して執り行います」と開式の挨拶。

11時2分、慰霊碑に眠る216名の御霊と原爆で亡くなられた多くの方々に黙とうをささげた。続いて島田執行委員が、慰霊碑に刻まれている碑文を朗読した。



【現地での最後の式典と新しくなった浦上駅】

式典の実行委員会を代表して豊田長崎地区本部執行委員長が、参列した退職者、組合員に謝意を表し、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の消息が見えない状況の中で参列者を大幅に制限して開催したことに理解を求めた。また浦上駅周辺開発に伴いJR九州の協力のもと今年末までに慰霊碑が移転となる事を報告し感謝の意を表した。1月の核兵器禁止条約の発効、7月の「黒い雨訴訟」の勝利判決に関し「先輩たちの被対

協運動の意思を継ぎ、戦前回帰への道を許さず、核廃絶と世界の恒久平和を強く訴え続ける」と挨拶した。

岩元中央本部書記長は、1月22日に発効した核兵器禁止条約に、「日本政府は国際世論に背を向け米国の核の傘に依存する安全保障条約を理由に反対し続けている」「世界で唯一の戦争被爆国である日本は、原爆の恐ろしさを世界に訴え核兵器廃絶に向け先頭に立つべき」と政府の態度を批判。「被爆者の高齢化が進む中、この体験を風化させない取り組みと、限られた時間の中で残された多くの課題解決が急がれており、被爆者救護法の適用拡大などその実現に全力を尽くす決意」と松川中央本部執行委員長の追悼の辞を代読した。

JR九州洲上副長崎支社長は、「いち早く救援列車を動かし、我が身を省みず国鉄職員としての使命を全うされた諸先輩方に深く敬意を表し、殉職された方々の尊い命を無駄にしないよう後世に伝え、ゆるぎない平和を築き上げていく」と決意を述べ、長崎駅周辺の開発に関し「地域の経済と文化の発展に貢献できるように地域と一体となった開発を進めて行

炎天下の中、慰霊碑清掃・樹木の伐採



【6月19日、御所、荒木、神近、開、宇都宮、豊田、川崎、俵坂、米満、7月29日(写真右)、秀島、豊田、上之濱、宇都宮、開、島田】

く」と2022年秋開業の西九州新幹線の進捗状況を報告。「今後とも地域の皆様から愛され親しまれる鉄道にしていく」と田中長崎支社長の追悼の言葉を代読した。

実行委員、組合員、退職者など約20人が参列した。